

【高等学校用】

令和3年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立鹿島高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設鹿島高等学校として1期生を送り出し、新しい学校の運営のあり方や方針が定まりつつある。次年度は、さらにそれを発展させることで地域に根ざした一つの学校であるという意識を高め、安定した学校運営につなげたい。</li> <li>・不登校傾向の生徒への対応、いじめ対応、事件事故の未然防止等に一層力を入れ、安心で安全な学校づくりを推進する。</li> <li>・卒業後の進路実現のため、学力の保障とキャリア教育を計画的に推進する。</li> <li>・「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」や「学校評議員制度」等の整理を通して、コミュニティスクール導入の基盤づくりを推進する。</li> <li>・校務の見直しを普段に行い、教員の働き方改革をさらに推進する。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	高い志をもち、主体的に道を切り拓いていく心豊かで逞しい人が育つ学校づくり
----------	--------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 自己肯定感や自己有用感を高め、豊かな人間性と高い志を育む教育活動の推進</li> <li>② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善</li> <li>③ 主体的に希望進路の実現を目指すキャリア教育の推進</li> <li>④ 「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」の継続・発展による、コミュニティスクール導入の基盤づくり</li> <li>⑤ 教職員の働き方改革の推進</li> <li>⑥ 校舎制による円滑な学校運営の推進</li> </ol>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善及び生徒の学習に対する主体的取組の確立	○授業の進捗や内容が適切であると思う生徒を80%以上にする。 ○授業をとおして学力が向上したと思う生徒を80%以上、意欲的に学ぶことができていると思う生徒を90%以上にする。	・授業を公開し、授業研究会を実施する。(各教科2名以上) ・授業アンケートを実施し、生徒の学習意識を確認する。 ・ICTを活用して家庭学習時間を把握し、タイムリーな学習指導を行う。
	◎社会に貢献する志を持つ生徒の育成 ○生徒の進路希望の実現	○自分の進路実現をとおして社会に貢献したいと考える生徒を90%以上にする。 ○国公立大学志願者の合格率を75%以上にする。 ○就職希望者の就職率を100%にする。	・進路講演会、出前講座、進路ガイダンスを各1回以上実施する。 ・HRや総合的な探究の時間において生徒のキャリアデザイン力の育成を図る。 ・進路検討会(年2回以上)や学年会等で現状や課題を把握・共有し、きめ細やかな個人面談を行う。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心等、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権感覚を身につけるための研修機会等へ参加した生徒、職員を95%以上にする。 ○自己有用感、自己肯定感が高まったと思う生徒を80%以上にする。	・人権・同和教育に関するホームルームと講演会をそれぞれ1回以上実施する。 ・全校集会または学年集会でSNSや情報モラルに関する指導を1回以上行う。 ・人の役にたつ喜びを体感することを目的として、ボランティア(春と秋の花ボラ、2月の祐徳ロードレース等)への参加を推奨する。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止基本方針にしたがって、組織的対応ができていると回答する教員を95%以上にする。 ○いじめは許されないという考えに基づき行動できたと答える生徒を95%以上にする。	・年5回程度のアンケート調査を学習用パソコンを利用して行う。 ・気になる生徒への声かけを行うとともに、学年会等で情報共有する。 ・いじめの対応について、5月までに職員に通知する。 ・対策委員会等により、組織としての対応を迅速に行う。 ・1学期にSOSの出し方に関する研修会を実施する。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○健康に食事は大切であるとする生徒を95%以上にする。 ○朝食の喫食率を95%以上にする。	・望ましい食習慣や食に関する情報を保健だより等で3回以上提供する。 ・食習慣に関するアンケートを2回実施し、結果をもとに必要な指導を実施する。
	●安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)件にする。	・年度当初に自転車点検及び自転車の乗り方に関する基本的な指導を実施する。 ・1学期に交通安全に関する講話を実施し、危険を回避する具体的方法を身に付けさせる。 ・交通安全について各学期に1回ずつ生徒会による呼びかけを行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年休取得7日以上職員を90%以上にする。	・各校務分掌において1つ以上の業務の効率化や見直しを行う。 ・「上限時間」を職員が目に見える場所に掲示する。 ・定時退勤推進日を設定し、定時退勤しやすい環境作りを行う。 ・時間外在校時間が80h/月を超えた職員には、上限時間に関する説明及び時間外在校時間削減のための面接を行う。 ・年休の取得をしやすい環境作りを行う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○コミュニティ・スクールを活用した魅力と活力ある学校づくり	○地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトの推進 ○コミュニティスクール導入の基盤整備	○主体的に探究活動に取り組む生徒90%以上、課題解決のための提案をした生徒を80%以上にする。 ○小学校及び中学校との連携事業を1つ以上行う。 ○12月までに学校運営協議会のメンバーを決定する。	・1年時は与えられた課題について、2年時は自ら考えた課題について解決策を考えさせる。 ・成果発表会を設定し、プレゼンテーションに取り組みさせる。 ・小、中学校との連携事業として、公開研究授業やスポーツ・文化交流等を行う。 ・地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト協議会と学校評議員会の合同開催をとおしてコミュニティ・スクール導入のための組織体制づくりを行う。
○校舎制による円滑な学校運営	○一つの学校であるという意識の深化	○校舎の枠にとらわれずに業務を行っているという意識の職員を75%以上にする。 ○校舎を超えた活動に意義を感じたと答える生徒を90%以上にする。	・各種会議を合同で実施する。 ・校時や行事は生徒、職員の移動に無理のない計画とする。 ・内線電話、ICT活用等の環境の見直しや整備を推進する。 ・上期、下期にそれぞれ1回以上、校舎の枠を超えた業務遂行についての職員アンケートを実施する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--